

# 就労に悩む若者を支援

## 俵山 悟 さん(27)

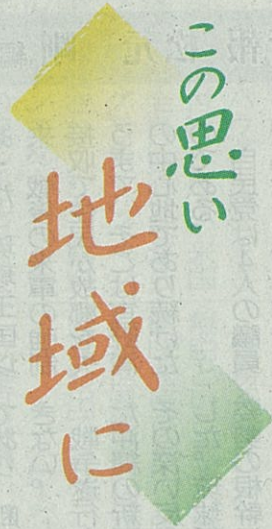
はちのへ若者サポートステーション総括コーディネーター



略歴

たわらやま・さとる 三戸町出身。青森大を卒業後、埼玉県内で接客・サービス業に2年間従事し、東日本大震災を機に地元に戻った。2013年に、はちのへ若者サポートステーションの支援員となり、立ち上げに関わる。14年10月から現職。27歳。

# 経験生かし同じ目線で



「ニート」や「引きこもり」といった言葉が社会問題となる中、就労に悩む若者を支援する八戸市の「はちのへ若者サポートステーション」。総括コーディネーターの俵山悟さん(27)に活動への思いなどを聞いた。

(聞き手・金澤一能)

—活動状況は。

国の認定事業で、当初は青森市のみだったが、八戸市と弘前市でも2013年に開所した。八戸は11市町村を対象に、15〜39歳の若者の社会的自立と就労的自立を目指している。メイン業務は仕事に関する相談。ビジネス

スマナーやコミュニケーションスキルを磨くセミナーを開いたり、職業体験や職場見学なども実施したりしている。初年度は204人の登録者のうち82人が何らかの進路を決めた。14年度は203人のうち137人が進路決定した。

—利用者の特徴をどのように捉えるか。  
20代で他人との関わりが苦手な人が目立つ。大学を卒業しても進路未決定だったり、就職後1、2カ月で離職してしまい、仕事に出るのがトラウマ(心的外傷)になったりするケースが見られる。

—「何をしたらいいのかわからない」「目標がない」という声も多い。全員に共通するのは、真面目な性格だということ。真面目過ぎるが故に成功体験が少なく、一步を踏み出せずに悩む。相談できる相手がいらないのも特徴だ。

—支援で大切なことは何か。

私たちが隣で寄り添って走る「伴走型支援」を心掛けている。本当は人一倍真面目だったり、すごい力を持っていたりする。相手の苦手な部分を

変わる。理解すれば変えられる。企業側も即戦力を求めるだけでなく、育てる姿勢を持ってほしいと考えるのだが。  
—この仕事に就いた理由は。

私自身も県外で就職してから地元に戻ったが、再就職に苦労した。大学を卒業していたので、周囲から何か言われるのが嫌で、親や友人にも相談できなかった。それだけに、この経験を生かし、若い人と同じ目線で相談に応じられないかと思った。私たちの一言にはリスクもあるが、若い人が自信を持ち、生き生き働けるようになる、その変化を間近で見られることがやりがいになっている。

—若い人たちに伝えたいことは。

早期離職する若い人の行動に対しては、理解できないという企業側の意見もあると思う。ただ、若い人の中には、仕事に対する知識が不足しているため、誰にも相談できず、苦悩している人が多い。そのような人は周りが少し教えてあげると、気が付きがあり、ガラリと